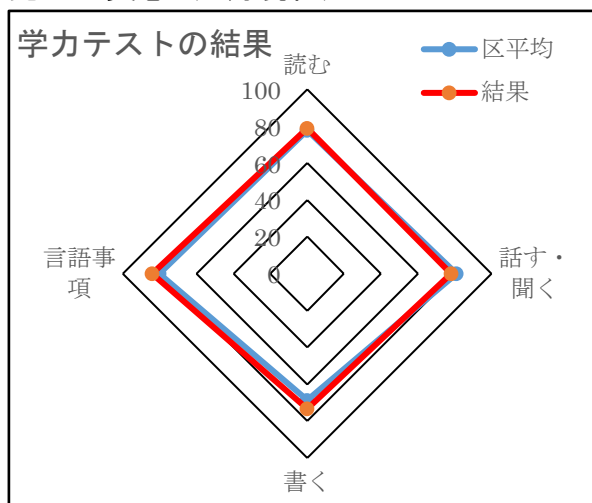


## 第4学年 国語科

### 児童の実態（7月現在）



#### <実態の分析>

読む／書く／言語事項観点においては、区の平均より高く、話す・聞く観点においては、区の平均より低い結果となっている。話す・聞くについては、特に、互いの考えの相違点や共通点を考えながら聞くこと、話すことの正答率が低い。視点を明確にして話したり聞いたりすることを理解させる必要がある。

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
<b>[課題設定]</b> 言語活動を意識した読みができていない。	<b>[指導]</b> 主体的に活動できるよう、目的意識をもち、ゴールを明確にした学習を計画する。	<b>[補充的な学習指導]</b> 漢字は個人差が大きく、実態に合わせて、課題を設定し、家庭学習などを含めて練習させるようにする。  <b>[発展的な学習指導]</b> 漢字の熟語を含めて、新しく覚えた言葉をいろいろな場面で活用する機会を設ける。学習したことをさらに深め、調べ学習を行う。
<b>[学習形態]</b> 一斉指導が多く、発言に偏りが出てしまう。	<b>[学習形態の工夫]</b> ペアやグループ学習を取り入れ、多くの意見を出させる。	
<b>[発問・指示・板書計画]</b> 学びが残る板書ができていない。	<b>[発問・指示・板書の工夫]</b> めあてを書く。色チョークを使いながら板書を工夫する。	
<b>[教材の活用]</b> ICTの活用において、資料掲示が多く、その他の活用ができていない。	<b>[教材の工夫]</b> 思考の流れを想定しながら適切なワークシートを作成したり、ICTを活用したりする。	
<b>[評価の方法]</b> 毎時間の一人ひとりの学習状況を把握する必要がある。	<b>[評価の工夫]</b> 学習の振り返りを取り入れたら、話し合い活動の様子も記録したりする。	

#### <評価・修正>

##### [評価]

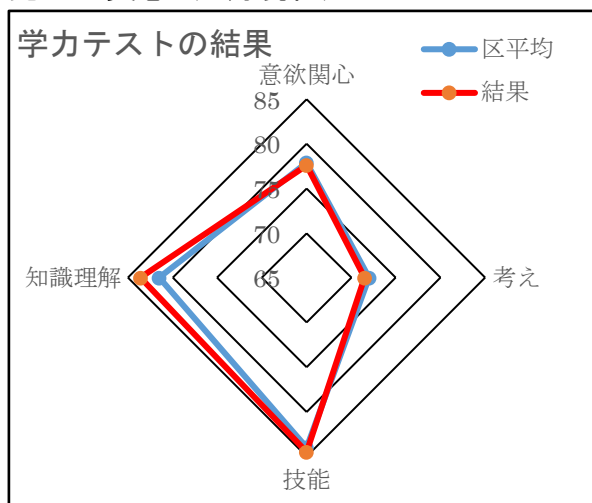
ペアやグループ学習を取り入れることで自分の考えが広まったり、再構築されたりするようになった。

##### [修正]

意見がすぐに思いつかない児童も話し合えるよう、個で十分に考える時間を確保する。

## 第4学年 算数科

### 児童の実態（7月現在）



#### <実態の分析>

数量や図形についての技能・知識・理解においては、区の平均よりも高く、数学的な考え方においては、区の平均よりもやや低い結果となっている。特に「かけ算」「わり算」の応用問題や「時刻と時間」の2つの時刻の間の時間を求める問題の正答率が低い。具体物を使用したり、立式までの過程を十分に理解させたりする必要がある。

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
[課題設定] 教科書の扱う数値や問題では、習熟度に沿っていないことがある。	[指導] 習熟の程度に応じて扱う数値を変えるなどして、児童の実態に沿った課題にしていく。	[補充的な学習指導] 児童の習熟に応じた補充問題を用意する。
[学習形態] 習熟度別に分かれていても、進度に個人差が出てきてしまう。	[学習形態の工夫] 1人→少人数→全体の形態とともに、教え合う時間や個別指導の時間も十分に取り入れる。	
[発問・指示・板書計画] 自分の考えを分かりやすく伝えられるようにする必要がある。	[発問・指示・板書計画] ICTやホワイトボードを活用し、考えを共有する。	[発展的な学習指導] 難しい問題では、既習事項を生かして解決方法を見付けるようにさせる。算数好きになるような質の高い問題を用意する。
[教材の活用] ICTをもっと有効に活用する。	[教材の工夫] ICTを活用しながら視覚からも十分な理解を促す。	
[評価の方法] 毎時間の一人ひとりの進度を把握する。	[評価の工夫] 学習の振り返りや解答状況を記録し、次の指導に生かす。	

#### <評価・修正>

##### [評価]

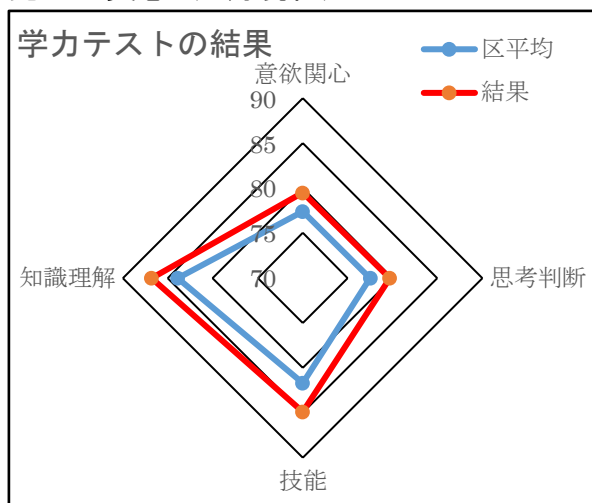
図形の学習ではICTを使うことにより様々なイメージを助ける手立てとなった。習熟度クラスによって問題量や難易度を調整したことで、学びが充実した。

##### [修正]

同じ習熟度の中にも進度の差が見られた。個に応じた発展学習が補充学習を充実させていく必要がある。

## 第4学年 社会科

児童の実態（7月現在）



### ＜実態の分析＞

社会的な思考・判断・表現、観察・資料活用  
の技能、社会的事象についての知識・理  
解において、区の平均より高い結果とな  
っている。問題別にみると、地図記号や方  
位の知識をもとに、方位磁針の針のふれ  
方について、実際の調査場面に即して答  
える問題での正答率が低い。地図記号や  
方位は普段から活用できるようにしてい  
く必要がある。

＜指導方法の課題＞	＜具体的な授業改善策＞	＜補充・発展指導計画＞
<b>[課題設定]</b> 単元によって課題設定が曖昧 になり、学習意欲を高められな いことがあった。	<b>[指導]</b> 主体的に取り組めるような課 題を設定する。	<b>[補充的な学習指導]</b> 東京都の地図や日本の地 図を取り入れ場所や地名 をその都度確認するこ とで覚えられるようにする。
<b>[学習形態]</b> 個人での学習が多くなってし まった。	<b>[学習形態の工夫]</b> ねらいに応じて交流形態を工 夫する。	
<b>[発問・指示・板書計画]</b> 板書を写すことに時間がかか ってしまいがちである。	<b>[発問・指示・板書の工夫]</b> 板書内容を精選し、児童が工夫 をし、分かりやすくまとめられ るようにする。	<b>[発展的な学習指導]</b> 図書資料やインターネット で調べたことを掲示物 等にまとめる方法（新聞・ ポスター・リーフレット・ パンフレット）を指導す る。
<b>[教材の活用]</b> 教科書だけの掲示物では資料 が少ない。	<b>[教材の工夫]</b> 副教材を適宜活用し、適切な資 料を選択できる力も養う。	
<b>[評価の方法]</b> 毎時間の目標を明確にもつこ とが必要である。	<b>[評価の工夫]</b> 学習の振り返りや課題に対する考えな ど、毎時間・毎単元で適切に評価する。	

### ＜評価・修正＞

#### [評価]

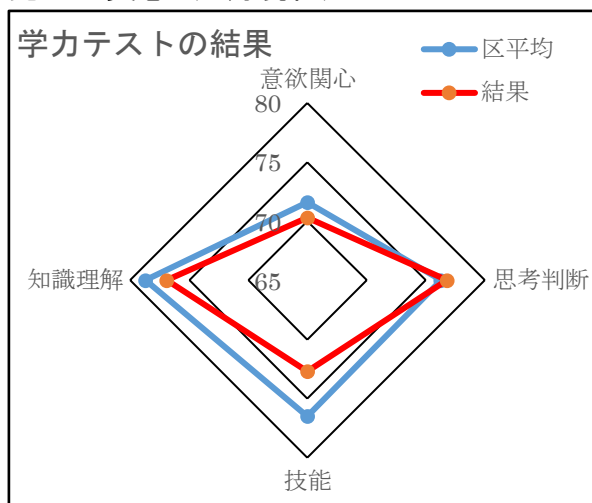
提示する資料の吟味や提示方法・順番などを工夫することで、焦点を絞って読み取ることができた。単元初めに学習問題づ  
くりを、単元まとめに学習問題に対する答えを考える時間を取ったことでゴールが明確になり主体的な学びに結びついた。

#### [修正]

単元の最後に行う活動ができないときがある。短時間で学びを表現できるようなものを考える必要がある。

## 第4学年 理科

### 児童の実態（7月現在）



#### <実態の分析>

科学的な思考・表現、観察・実験の技能、自然事象についての知識・理解においては、区の平均より低い結果となっている。問題別にみると、植物の育ち方、こん虫のからだのつくりの正答率が低い。実感を伴った基礎的な知識・理解を確実に積み重ね、さらに学んだことを活用して考える力を身に付けていく必要がある。

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
[課題設定] 単元によって学習意欲を高められないことがあった。	[指導] 意図的に気付きを導けるような導入を工夫する。	[補充的な学習指導] プリントや視聴覚教材での復習を取り入れる。
[学習形態] なるべく一人一実験できるよう道具を準備したが、考えを共有する時間が少なかった。	[学習形態の工夫] 考えを共有する時間を十分にとり、学び合えるようにする。	
[発問・指示・板書計画] 学習過程を明確にして板書してきたが、ノートの活用に個人差がある。	[発問・指示・板書の工夫] 板書を写すだけでなく、自分でも工夫してまとめられるようにする。	[発展的な学習指導] 学習したことを活用し、おもちゃ作りや調べ学習を行う。身近なものに置き換えて考えられるようにする。
[教材の活用] 数が少ない実験道具もあり、スムーズに実験が行えないことがあった。	[教材の工夫] 手順や結果が分かりやすい実験道具の開発をする。実験道具を充実させる。	
[評価の方法] 毎時間の目標を明確にもつことが必要である。	[評価の工夫] 学習の振り返りや課題に対する考えなど、毎時間・毎単元で適切に評価する。	

#### <評価・修正>

##### [評価]

実験をした後に、この事象は身近な生活のどこに生かされているだろうか考えさせたことで、理科への興味を深められるようになった。

##### [修正]

導入では児童の興味が高まるよう工夫し、単元を通して主体的な学びにつなげる必要がある。

## 第4学年 体育科

### 児童の実態（7月現在）

<p>&lt;実態の分析&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動に対しては意欲的だが、授業以外の休み時間に体を進んで動かしているのは半数ぐらい。</li> <li>・1学期は集団行動・体づくり運動・かけっこ・リレー、表現運動（運動会の練習）、ベースボール型ゲーム、浮く・泳ぐ運動の領域の学習を行った。</li> <li>・個人の技能に重点が置かれる運動については、自分の課題に応じた練習方法を選び、友達とかかわりながら運動できている。</li> </ul>
---

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
<p>[課題設定]</p> <p>1時間の中で何を目標にするのか明確にする必要がある。</p>	<p>[学習のねらいの明確化]</p> <p>学習カードを用いて、毎時間のめあてを記入する。（個人、全体）</p>	<p>[補充的な学習指導]</p> <p>休み時間などにもできる運動を紹介し、運動に親しもうとする気持ちを育む。</p>
<p>[学習形態]</p> <p>児童同士の学び合いの時間を取り入れる。</p>	<p>[学習形態の工夫]</p> <p>課題別や技能別など、内容に応じてグループを構成する。</p>	
<p>[指示・支援]</p> <p>ポイントの説明に多く時間をとらないようにする。</p>	<p>[指示・支援の工夫]</p> <p>ポイントを明確に伝えるとともに、児童からの気づきを大切にす。</p>	<p>[発展的な学習指導]</p> <p>ICTを有効に活用し、技能をより高められるようにする。</p>
<p>[場の工夫・学習資料]</p> <p>場が多すぎることで児童の思考を狭めてしまうことがある。</p>	<p>[場の工夫・学習資料]</p> <p>運動の特性、児童の実態に応じた場の工夫をする。</p>	
<p>[評価の方法]</p> <p>行動での観察の際、1時間の中で全員を評価することが難しい。</p>	<p>[評価の工夫]</p> <p>一単位時間の目標、評価の規準を明確にする。単元を通して児童の進捗を計画的に把握できるようにする。</p>	

<p>&lt;評価・修正&gt;</p> <p>[評価]</p> <p>グループ学習を取り入れたことにより、活発に教え合ったり、励まし合ったりするようになっただけでなく、場の選び方や、作戦の工夫なども考えられるようになり、体育の学び方が身に付いてきた。</p> <p>[修正]</p> <p>柔軟なルールにすることで、クラスに合ったゲームを楽しめるようにする必要がある。</p>
---